

## グローバル・カフェ「和太鼓ワークショップ」を開催しました

7月4日（木）昼休み、法学部3年・日和佐翔太さん（讃岐国分寺太鼓保存会所属）とのコラボレーションで「和太鼓ワークショップ」を実施しました。太鼓3台と打楽器をグローバル・カフェに設置し、実際に太鼓を叩いて、聴いて、全身で響きを体感できるワークショップとなりました。留学生6名、日本人学生12名、教職員5名の計23名が参加しました。



最初に太鼓の造りについて説明がありました。太鼓はケヤキ、クリなどの硬い木材をくり抜いたものに、牛、馬、鹿などの動物の皮を両面に張ったもので、皮の種類や張り方、叩くバチなどによって音色が異なります。また、よく太鼓の演奏に合わせて使用される打楽器として、摺鉦【すりかね】（小さな金属製の円盤状で専用のバチで叩く楽器）や、拍子木【ひょうしぎ】（江戸時代から消防活動で火事の警報として使用されていた2本1組で使われる木製の棒）なども実物を見せて紹介されました。

参加者の一人が摺鉦で一定のリズムを刻むなか、日和佐さんによる即興演奏が披露され、その華麗なバチさばきに会場から拍手が沸き起こりました。太鼓の音を聞くと「落ち着く」「どこか懐かしい」と思う人もいるかもしれないが、それは、かつて自分が胎内でいたときに聞いていた母親の心臓の音と似ているからだそうです。

最後は、希望者が前に出て太鼓の演奏に挑戦しました。太鼓を打つ時の姿勢、バチの持ち方、体の使い方など、日和佐さんのアドバイスを受けながら、自らが奏でる迫力のある太鼓の音を楽しんでいる様子でした。

